

第7期第3回 評議員会 議事録

日時：2025年3月1日（日）12:00～12:45

場所：日本学術会議 会議室（オンライン併用）

1. 本日の共催学術フォーラムについて（西尾理事長）

- 日本学術会議主催の学術フォーラム「AI活用時代における経営教育の変革」が13:30より開催され、本協議会も共催として参加。
- 本件は日本学術会議による正式イベントであり、会場費等は学術会議側が負担する形。
- 学術会議のフォーラム枠のため、各学会への告知協力に対して感謝。今後も引き続き積極的な参加・協力を呼びかけ。

2. 会務に関する諸報告

(1) 広報

- 12月の評議員会での意見を踏まえ、ホームページは必要な情報の更新・告知を簡素かつ早めに行う方針。
- イベント情報（シンポジウム等）は企画担当理事とも連携し、できるだけ早くホームページに掲載。
- ホームページとのニュースレター（6月発行予定）との二段構えで広報する。

(2) 組織

- 理事会では「イベント等の機動性を高める体制の整備が必要」との議論。
- 6月までに組織体制を再検討し、必要があれば改組や役職再編も含めて検討する予定。

(3) 企画

- 前回のアンケートやシンポジウムで顕在化した「若手研究者の育成」ニーズが大きな焦点。

- 年齢ではなく研究歴・キャリア初期を含む“これからの研究者”支援を視野に、「若手の会」や領域横断的ワークショップなどを企画。
- 講演会やシンポジウムでの発表機会、交流の場を設けることで若手のネットワーク形成を図る。

(4) 会計

- 加盟 56 学会のうち 46 学会が本年度分を納付済。残り 10 学会は未納で、うち複数団体は過年度分も滞納。
- 3 月末で会計年度を締め、4～5 月に監査を実施。6 月の理事会・評議員会で決算・予算を報告予定。
- 未納学会には引き続き早期納付を依頼する。

(5) 出版

- 英文ジャーナル「JJM」は J-STAGE 上でバックナンバー閲覧可能だが、投稿が近年ほとんど無く、刊行が止まっている。
- 若手の海外誌投稿志向などにより、協議会内英文誌のニーズが低下していることが一因。
 - 今後アンケート等を実施し、英語論文の扱い・掲載方針を再検討。加えて、「論文以外の有益コンテンツ」掲載も視野に入れ活性化を図る。

3. 審議事項・討議内容

若手研究者支援とネットワーク構築

- アンケート結果の共有
 - 12 月開催の若手研究者育成シンポジウムに合わせて行ったアンケートで、22 団体から多くの要望・事例が寄せられた。
 - 各学会の若手育成事例や課題をホームページ等でフィードバックし、学会間での情報共有を促進する。
- 若手（キャリア初期）研究者への具体的支援
 - 学術領域を超えた「若手の会」の結成や、発表・交流機会の提供を要望する声が強い。
 - 今後、年齢ではなく研究歴をベースに緩やかに定義しつつ、社会人大学院生や実務家研究者も排除しない形で広く参加できる仕組みを検討。

- 研究交流イベントやシンポジウムを「若手中心企画」として開催し、成果を英文ジャーナル (JJM) に掲載する構想も。
- 評議員・理事の若返り・体制強化
 - 各学会の評議員推薦時に若手を積極登用する案や、別途「若手評議員会」を設ける案が提案された。
 - 若手視点の企画を持続的に展開するため、学会と連携しつつ組織を若返りさせる必要性を共有。

開催日程・運営について

- 次回（6月）の理事会・評議員会日程を早めに確定し、周知を図る。11月～12月や次年3月の日程も早期に検討し、告知できるようにする。（6月22日を第1候補、6月15日を第2候補として会場の明治大学に会場の空き状況を照会することになった）
- 従来 of 公開シンポジウムや講演会も含め、若手研究者を登壇・発表に積極的に登用する方向を推進。

4. その他

- 本評議員会終了後、13:30より日本学術会議主催フォーラムを実施。引き続き参加を呼びかけ。

上記のとおり、本評議員会では共催フォーラムの概略、広報・組織・企画・会計・出版の各報告が行われ、今後の重点方針として「若手研究者の支援・育成とネットワーク化」を協議会全体で推進することが確認された。特に“年齢によらず研究キャリア初期の研究者”を主対象とし、交流・発表の場を設けるなどの具体策を検討する方針。6月の次回会合では、会計決算や組織・企画案の詳細が示される予定。